

地方から厳しい意見

政府の進めるこうした病床削減に対して、2020年12月25日に行われた“社会保障審議会医療部会”では、地方の代表委員から「効率一辺倒で余裕のない地域医療構想の推進は中止・見直しを行い、感染症病床の確保を含め、余力と備えのある地域の医療体制を再構築すべき」という意見が続出しました。

全国市長会の久喜委員

コロナの感染拡大の中で今、病院を再編していくということは大きな問題があるのではないかと。全国市長会としては地域医療崩壊を加速させるおそれがあるのではないかと。大変懸念しております。コロナ禍が収束するまでは少なくとも停止するほうが望ましい。

全国知事会の平井委員

今、地域医療は非常に逼迫した状況にあります。この時期に、再編整理みたいな議論というのは全く本末転倒であります。ぜひここは立ち止まっただき、ぜひ大きな見地で見守っていただく必要があるのではないかと。病床の確保をしようとしている相手方の病院に、再編整理の話を持ちかける、あるいは調整するなどということは全くナンセンスであります。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.706 2021年5月16日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))

「労災病院を守る運動を」「総合事務所充実を」「事業者経営支援金充実を」「文化の灯消すな」



日本共産党議員団の市政報告会で様々な声

4月29日に市民プラザで行われた日本共産党議員団の市政報告会では、市政への要望や意見が次々に出されました。

最初に橋爪議員団長が、「3月議会は豪雪や新型コロナウイルスへの対策などで活発な議論になった。特にコロナ対策では、いくつかの新しい政策が打ち出されたが、まだまだ不十分な状況だ。引き続き充実に向けて力を尽くす」と挨拶。続いて平良木、上野、橋爪の順に各委員会審議の模様や一般質問での論戦について報告しました。

報告の後の意見交換では、参加の市民から様々な意見や質問が出されました。主なものを紹介します。

◇ 労災病院の統廃合問題はどうか。存続に向けてどんな運動が。存続に向けてどんな運動が。存続に向けてどんな運動が。

◇ 動が必要なのか。
市内の小中学校には、消毒や事務補助のサポートが配置されていたはずだが、この春からいなくなつたのではないかと。

◇ 市の臨時職員の割合はどうか。必要なのは正職員が配置されていないではないかと。

◇ 豪雪で総合事務所に連絡しても、大潟区には担当部署がなく柿崎区の事務所への連絡となることもあつて、地名を言っても通じないことがあつた。地元の職員が激減しているこの状態は、今後も問題になる。なんとかしてほしい。

◇ 事業者経営支援金の予算額はなにを根拠にしたのだろうか。必要としている事業者にちゃんと給付できているのだろうか。予算はすべて使い切るように、要望に応じた給付をしてほしい。

◇ 声楽や邦楽などでは市内出身の芸術家が多い。去年も今年もイベントができない状態が続いているが、このままでは来年以降も開催するだけの“体力”を失つてしまふ。文化の灯を消さないような手立てをとってほしい。

ワクチン接種や経済対策の状況を分析

新型コロナウイルス調査対策特別委員会

上越保健所管内感染症患者発生状況 (5月7日現在)	
PCR検査実施件数	8988件(前々週+521)
管内陽性件数	99件(前々週+3)
上越市内陽性件数	88件(前々週+1)
陽性率	1.10%(前々週1.11%)

4月27日に、「新型コロナウイルス調査対策特別委員会(上野議員所属)」が行われました。この委員会は、コロナ禍から市民の暮らしと営業を守るための施策を提言するよう、積極的に開催するとされていますが、今回は昨年12月15日以来の久々の開催となりました。

委員会では、行政が行ってきたこの間の感染防止策や、ワクチン接種の実施計画、追加の経済対策などについて報告され、審

議されましたが、新たな提言をまとめるまでには至りませんでした。

上野議員は、経済対策のうち、「事業者経営支援金制度」の内容に不十分な点があることが市民から指摘されていることを述べ、改善を求めました。

これに対して担当課長は、「指摘の点については、現在、改善に向けて検討しており、連休後に明らかにすると、前向きな姿勢を示しました。」